

学校外での子供の多様な学びに関する支援事業の在り方検討有識者会議

第1回 議事要旨

- 開催日（持ち回り）：①令和7年8月12日（火曜日）9時00分から10時30分
②同月13日（水曜日）10時00分から11時30分
③同月18日（月曜日）14時00分から15時30分

○開催場所：オンライン開催

※学校外での子供の多様な学びに関する支援事業の在り方検討有識者会議設置要綱
第6条により非公開

○出席者：①秋田喜代美委員

②今村久美委員

③加瀬進委員

○本会議の目的

- ・学校生活になじめない子供の学び・居場所の創出の選択肢を多様化させるため、「学校教育の更なる充実」と「学校外の学び・居場所の創出」に取り組んできた
- ・「学校外の学び・居場所の創出」という観点から、都では、子供目線に立った取組を行うフリースクール等の活動を支援するため、有識者の意見を踏まえ補助制度を構築し、令和6年度からフリースクール等支援事業を開始した
- ・従来、フリースクール等に対する行政的支援はなく、多様なフリースクール等があり、取組内容も様々であることから、現場実態を把握しながら子供目線に立った政策に不断にバージョンアップしていくことが必要不可欠である
- ・フリースクール等支援事業の開始から1年が経過し、今後フリースクール等に対してより実効性等の高い支援となるよう、初年度の実績等を踏まえ、外部有識者の協力のもと検証を実施

■議題

- 1 フリースクール等支援事業について
- 2 サポートプランについて
- 3 体験活動について
- 4 安全対策整備・安全対策管理について
- 5 資質向上支援・資格取得支援について
- 6 フリースクール等利用者支援事業について

<委員からの主な意見>

1 フリースクール等支援事業について

- ・率直に、素晴らしい取組が行われていると思う
- ・都の実践は全国的先駆けになる事業だと思っており、都で開発されたスキームは全国でも活用されてほしい
- ・フリースクール等支援事業をきっかけに、フリースクール等が子供一人ひとりについて「この子にとって今、あるいはこれから必要なものは何なのだろう」と皆で考えていかなければならない

2 サポートプランについて

- ・学校とフリースクール等の間でサポートプランを共有できたというのは素晴らしい実践
- ・フリースクール等が定期的に子供への支援内容を振り返り、改善することができるよう、サポートプランの様式を工夫するべき
- ・フリースクール等がサポートプランの見直しの重要性を認識することができるよう、都として工夫を図るべき
- ・サポートプランの作成が、フリースクール等と保護者や子供とのコミュニケーションを増やす機会となっており、更なる活用に期待
- ・特に、保護者とのヒアリングの際は必ず聞くべきことを漏らさない事が大事で、どの支援機関とつながっている子供なのか知ることは必要な支援の確認のためにも必要
- ・子供の特性などを言いたくない保護者もあり、子供に関するすべての情報を把握できない可能性もあることを念頭に入れた方が良い
- ・子供へのヒアリングの際は、「将来こうしたい」という長期目標だけではなく、

「明日こんなことを頑張りたい」といった短期目標を聴くことができれば、支援内容を考えやすくなるのではないか

- ・校内別室などをフリースクール等と並行して活用している子供もいる。その場合のサポートプランの活用についても検討してはどうか
- ・サポートプランの作成マニュアルを充実することで、より実効性を高めるべき

3 体験活動について

- ・フリースクール等に通う子供たちが、この支援を通じて農業体験など自然の中での学びを経験できることは非常に良い
- ・補助対象経費については、公教育で何を公費負担としているかを踏まえて考えると、よりバランスが取れた仕組みとなるのではないか
- ・フリースクール等が遊園地等を活動先にすることについて、他者との関わりの機会の創出や外出の抵抗を軽減する観点から、政策的な妥当性はあるが、公教育における校外活動の目的や活動内容とのバランスという視点も取り入れていくことは重要
- ・都外の施設等での活動については、公教育における校外活動とのバランスという視点や都境にあるフリースクール等が実施する場合の交通の利便性の観点から考えると良い
- ・体験活動実施後、参加した子供にどのような変化があったかなど、取組の成果をフリースクール等から報告してもらうことは重要であるが、事業者にとって、過度な負担にならないように配慮することが望ましい

4 安全対策整備・安全対策管理について

- ・都の補助により、フリースクール等が安全対策を実施していることを発信することは非常に意義がある
- ・都からの発信により、フリースクール等がどういった安全対策を実施すればよいのか、という意識啓発にもつながる
- ・フリースクール等は規模も様々なので統一的な基準を設けることはできないと思うが、それぞれに合った安全対策を実施してもらうことは必要
- ・都からフリースクール等に対して、緊急時に必要な物品の購入だけでなく、防災訓練等を実施することの重要性を働きかけると良い
- ・訓練だけでなく、緊急時の親との連絡の取り方なども確認・整理すると良い

5 資質向上支援・資格取得支援について

- ・フリースクール等のスタッフが、都の補助事業を活用して子供の支援のための資格取得や知識の向上に取り組んでいることは、非常に意義がある
- ・通ってくる子供によって特性が異なることやフリースクール等によって様々な支援方法があることから、必須となる資格などの基準設定は困難と思われる。その点、現在の補助スキームはフリースクール等ごとに必要な知識を得られる支援方法になっているので良い
- ・スタッフの資質向上に向けては、都が実施している専門家派遣や研修も補助と両輪で活用してもらえるとより良い

6 その他委員からの意見

- ・フリースクール等支援事業を通じてフリースクール等の底力は上がっており、更なる質の向上に向けて、引き続き取り組んでもらいたい
- ・トライ＆エラーになると思うが、一步一步着実に進めてもらいたい
- ・着目すべき取組事例を他のフリースクール等と共有すべき
- ・「サポートプランの作成により、フリースクール等の質の向上を目指す」という事業趣旨について、フリースクール等に対してしっかりメッセージを発信していく必要がある
- ・現在は、子供のメンタルサポートが支援の中心になっているが、将来的なキャリアサポートの支援についても見据えることができるとなお良いと思われる